

『蒙古襲来絵詞』第2巻 第18紙～第20紙

この場面では、ボートに乗った武士たちが、侵略するモンゴル軍に向かって航海している様子が描かれています。巻物の中心的人物である武士、竹崎季長（1246 生まれ）は描かれておらず、詞によると、すでに前方に漕いで行っています。この場面や他の船の場面での季長の不在は、彼の船を含む巻物の一部が失われたことを示唆しています。武士たちの鎧や顔の表情の細部に相当な注意が払われていることに注目してください。

この絵巻物は、モンゴルとの戦いにおける彼の勇気の歴史的記録として、末永が依頼した可能性があります。この巻物は、モンゴル侵攻のわずか数年後に制作されたため、この絵は、貴重な当時の戦いの記録でもあります。